

記者配布資料
令和8年10月13日
秘書課

令和8年度 県民表彰受賞者一覧

部門	氏名	年齢	主要経歴	現住所
地方自治	アサヤマ ツヨシ 朝山 毅	79	元 奄美市長 元 笠利町長	奄美市
教育文化 スポーツ	アンドウ タモツ 安藤 保	85	元 鹿児島県文化財保護審議会委員 元 鹿児島大学教育学部教授	鹿児島市
保健福祉	ワタナベ マサト 渡邊 正人	79	現 鹿児島県民生委員児童委員協議会会長 現 鹿屋市民生委員児童委員協議会会長	鹿屋市
産業経済	ワタナベ カツミ 渡邊 勝三	83	元 鹿児島空港ビルディング株式会社代表取締役社長 元 公益社団法人鹿児島県バス協会会長	鹿児島市
	ツボミズ トクロウ 坪水 徳郎	72	元 鹿児島県商工会議所連合会副会長 元 鹿屋商工会議所会頭	鹿屋市

※年齢は令和8年10月30日現在

※令和8年度県民表彰式開催日時

10月30日（金）午前11時～ 議会庁舎6階本会議場

あさ やま つよし
朝 山 毅

◆年 齢／満79歳

◆現住所／奄美市

●主な経歴

時期	経歴
平成6年12月～平成18年3月	笠利町長
平成18年3月～平成18年4月	奄美市長職務執行者
平成18年6月～平成19年3月	奄美市助役
平成19年4月～平成20年4月	奄美市副市長
平成21年12月～令和3年11月	奄美市長
平成29年2月～令和3年11月	鹿児島県市長会理事
平成30年5月～令和2年5月	九州市長会理事
平成22年6月～平成23年6月	全国市長会評議員
平成26年6月～平成27年6月	同上
平成29年6月～平成30年6月	同上
令和2年6月～令和3年6月	全国市長会理事
平成21年12月～令和3年11月	奄美群島の世界自然遺産登録推進協議会会長
平成21年12月～令和3年11月	奄美群島航路対策協議会会長
平成21年12月～令和3年11月	奄美大島・喜界島航路対策協議会会長
平成21年12月～令和3年11月	鹿児島・喜界・知名航路運営協議会理事
平成21年12月～令和3年11月	奄美群島広域事務組合管理者
平成21年12月～令和3年11月	公益財団法人海上保安協会奄美支部支部長

●主な受賞歴

時期	受賞歴
平成19年3月	総務大臣表彰（市町村合併功労）
平成25年11月	離島振興60周年記念 全国離島振興協議会会長一般表彰（離島振興功労）
平成30年10月	総務大臣表彰（市町村長勤続20年）
令和2年7月	海上保安庁長官表彰
令和3年6月	全国市長会永年勤続功労者表彰（勤続12年）
令和8年4月	旭日小綬章（地方自治功労）

● 主な功績

〈概要〉

平成6年12月に笠利町長に就任し、3期約11年にわたり、同町長を務めた後、平成18年3月に名瀬市、住用村及び笠利町の合併により誕生した奄美市の市長職務執行者、助役及び副市長を経て、平成21年12月に奄美市長に就任。令和3年11月まで3期約12年の長きにわたり同市長を務め、卓越した手腕と豊富な行政経験をもって、市勢の発展と住民福祉の向上に大きく貢献。

〈個別〉

- ・ 市長就任後、「入りを量りて出づるを制す」を基本に、中長期視点に立った事業の必要性や厳しい財政状況を見据えた実施計画及び財政計画を策定するなど、徹底した行財政改革に尽力。
- ・ 市長就任翌年の平成22年10月に発生した「100年に一度」といわれる奄美豪雨災害では、奄美大島各地に甚大な被害がもたらされた中、早期の災害復旧に尽力したほか、この災害を教訓として、防災拠点機能を備えた各支所の新庁舎整備、防災行政無線のデジタル化や自主防災組織の設立、各種災害連携協定の締結推進など、ハードとソフトの両面から防災・減災対策の充実及び強化に尽力。
- ・ 18歳までの子ども医療費無償化を早期に実現するなど積極的に住民福祉サービスの向上に努めたほか、医療環境の充実にも取り組み、県立大島病院救急救命センターの開設や奄美ドクターヘリの就航に貢献。
- ・ 奄美群島12市町村で構成する奄美群島広域事務組合の管理者として、奄美群島成長戦略ビジョンの策定や、奄美群島振興開発特別措置法の延長及び改正等について、12市町村の先頭に立って積極的に取り組み、奄美群島振興交付金の創設により離島航路・航空路の充実及び運賃の軽減、都市圏からのＬＣＣ便の就航、農林水産物の輸送コスト支援等が実現されるなど、地域住民の生活の向上に貢献。
- ・ 豊かで希少な自然や独自の伝統文化の価値を国内外へ広く発信し、「奄美群島国立公園」の誕生や「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録が実現するなど奄美群島の観光振興にも貢献。また、奄美群島の魅力が国内外に発信される機会となるよう、自動車等のご当地ナンバーである「奄美ナンバー」の導入に尽力し、九州で初めて、かつ全国の離島で初めて導入が決定され、平成26年に交付が開始。

あんど う たもつ
安藤 保

◆年 齢／満85歳

◆現住所／鹿児島市

●主な経歴

時 期	経 歴
昭和46年4月～昭和50年3月	東海大学文学部講師
昭和50年4月～昭和55年3月	東海大学文学部助教授
昭和55年4月～昭和58年9月	鹿児島大学教育学部助教授
昭和58年10月～平成8年3月	鹿児島大学教育学部教授
平成8年4月～現在	鹿児島大学名誉教授
平成8年4月～平成12年3月	九州大学文学部教授
平成12年4月～平成17年3月	九州大学大学院人文科学研究院教授
平成17年4月～現在	九州大学名誉教授
平成8年4月～平成30年5月	鹿児島県文化財保護審議会委員
平成元年4月～平成18年5月	黎明館史料編さん委員
平成18年6月～現在	黎明館史料編さん顧問
平成19年12月～令和7年12月	黎明館専門委員
令和8年4月～現在	黎明館協議会委員
平成18年4月～現在	鹿児島県史料集刊行委員会委員
平成27年5月～平成28年3月	明治維新150周年事業「明治維新と郷土の人々」編集委員
平成26年7月～令和6年3月	始良市誌編さん委員・始良市誌編さん顧問

●主な受賞歴

時 期	受 賞 歴
平成23年11月	鹿児島県文化財功労者表彰
平成28年12月	文部科学大臣表彰（地域文化功労）
令和4年11月	瑞宝中綬章（文化財保護功労、教育研究功労）

●主な功績

〈概要〉

東海大学、鹿児島大学及び九州大学の教員として社会経済史学を専門に研究するとともに、鹿児島県文化財保護審議会委員、黎明館史料編さん委員・顧問等を務め、長年にわたり本県の歴史研究・教育並びに文化財保護に大きく貢献。

〈個別〉

- ・ 鹿児島県文化財保護審議会委員を務め、江戸時代に薩摩藩が各郷を統治するために設置した地方行政機関である地頭仮屋に関する史料群「山崎郷御仮屋文書」や「伊作郷御仮屋文書」、「蒲生郷御仮屋文書」などの鹿児島県指定有形文化財の指定において、中心的役割を担い、近世史料の価値評価と保存に大きく貢献。「伊作郷御仮屋文書」の調査や研究を通じて得られた成果は、平成15年刊行の「吹上町郷土誌」の編さんに活用され、史料に基づき地域の歴史を分かりやすく紹介した同書は、県内郷土誌の模範となる優れた成果として高く評価されるなど、歴史研究の発展に寄与。
- ・ 黎明館史料編さん委員として、「鹿児島県史料」の刊行に参画するとともに、刊行ごとに配布される月報に研究成果を分かりやすく紹介する論文を執筆し、史料の価値を広く県民に伝える役割を果たしたほか、史料として後世に残すべき文書の選定やその歴史的価値の評価など、幅広い知見に基づく助言に加え、古文書の解説・翻刻という基礎的かつ不可欠な作業に長年にわたり尽力。特に幕末薩摩藩の中心人物である島津久光に関する一級史料を体系的に公開した「鹿児島県史料 玉里島津家史料」は、幕末史研究に新たな視点をもたらすとともに薩摩藩の動向を着目した研究の進展に大きく寄与し、同研究の重要な基礎資料として広く活用されている。
- ・ 黎明館史料編さん顧問として、史料解釈の最終判断や解題執筆を行い、刊行史料の学術的水準を支え続け、本県の史料編さん事業の根幹をなす役割を担った。
- ・ 黎明館専門委員として、資料収集や調査研究、展示公開への指導・助言を行うとともに、古文書講座や講演会・ふるさと歴史講座等の講師として多くの県民に歴史の魅力を伝え、郷土への理解と誇りを育む活動に尽力。

わた なべ まさと
渡 邊 正 人

◆年 齢／満79歳

◆現住所／鹿屋市

●主な経歴

時期	経歴
平成4年12月～現在	民生委員・児童委員
平成16年12月～現在	鹿屋市高隈地区民生委員児童委員協議会会長
平成22年12月～現在	鹿屋市民生委員児童委員協議会会長
令和2年1月～現在	鹿児島県民生委員児童委員協議会会長
令和8年4月～現在	九州ブロック民生委員児童委員協議会副会長
令和8年3月～現在	全国民生委員児童委員連合会理事
平成20年1月～現在	鹿屋市人権擁護委員
平成22年7月～平成24年7月	鹿屋市青少年問題協議会委員
平成23年7月～平成25年7月	鹿屋市地域まちづくり推進協議会委員
令和2年3月～現在	鹿児島県社会福祉協議会副会長
令和4年7月～現在	鹿児島県生活安定審議会委員
令和4年10月～現在	鹿児島県社会福祉審議会委員
令和5年1月～現在	鹿児島県自殺対策連絡協議会委員

●主な受賞歴

時期	受賞歴
平成15年9月	鹿屋市保健福祉大会表彰（民生委員・児童委員永年勤続）
平成15年10月	鹿児島県少年補導功労者表彰
平成18年11月	鹿児島県社会福祉協議会会長表彰（民生委員・児童委員永年勤続）
平成20年10月	鹿児島県知事表彰（社会福祉功労）
平成22年10月	全国民生委員児童委員連合会表彰
平成24年11月	全国社会福祉協議会会長表彰（民生委員・児童委員功労）
平成27年11月	厚生労働大臣表彰（社会福祉功労者）
令和元年6月	全国少年補導栄誉銅章
令和3年2月	鹿屋市社会教育功労者表彰
令和5年11月	瑞宝単光章（社会福祉功労）
令和7年10月	鹿屋市市制20周年記念表彰（市政功労賞）

●主な功績

〈概要〉

平成4年12月から現在まで約33年もの長きにわたり、民生委員・児童委員として、「誰もが笑顔で安心して生活できる地域づくり」を目指し、地域福祉の向上のために献身的に尽力され、民生の安定及び地域住民の福祉の増進に大きく貢献。

〈個別〉

- ・ 鹿児島県民生委員児童委員協議会会長や鹿屋市民生委員児童委員協議会会長として、県及び市における民生委員・児童委員活動を牽引し、組織の発展、活動基盤の強化及び委員が意欲ややりがいをもって活動できる環境づくりに尽力。
- ・ 鹿児島県民生委員児童委員協議会会長として、将来を見据えた「持続可能な事業運営」を掲げ、規約や諸規程の改廃、専門委員会の再編など組織の根幹に関わる改革にも着手し、その礎を築くなど、組織運営の基盤強化に尽力。
- ・ 全国的な課題である「なり手不足」に対応するためには、民生委員制度の社会的認知度向上が不可欠であるという認識のもと、鹿児島県における民生委員創設100周年を機に県民生委員児童委員協議会のキャラクターである「鹿児島版ミンジー」を作成。公共交通機関への掲示や県庁におけるパネル展示など積極的な周知活動に取り組んだほか、委員が活動しやすい環境の整備に向け、県知事との懇談会を実施して現場の声を直接届けるなど、行政機関との連携強化に尽力。
- ・ 鹿児島県民生委員児童委員協議会が主催する研修会の実施方法を従来の会場に参集する形式からオンライン配信を併用する形式に見直し、これまで課題となっていた、各地域の代表者しか参加できないという受講者の制限を解消したことで、居住地にかかわらず、より多くの委員が研修を受講できるようになり、幅広い委員への研修機会の確保及び委員の資質向上に貢献。
- ・ 鹿屋警察署管内の少年補導員として、駐在所と連携のもと、青少年の非行防止に取り組むとともに、スクールガード・リーダーとして、小中学校の登下校時における児童生徒の見守りを長年継続するなど、地域における防犯や見守り活動に尽力。

わた なべ かつ み
渡 邊 勝 三

◆年 齢／満83歳

◆現住所／鹿児島市

●主な経歴

時 期	経 歴
平成12年12月～平成21年11月	南国交通株式会社代表取締役社長
平成21年12月～平成25年11月	南国交通株式会社代表取締役会長
平成25年12月～平成29年11月	南国交通株式会社取締役会長
平成29年12月～令和元年12月	南国交通株式会社取締役相談役
令和元年12月～令和6年12月	南国交通株式会社相談役
平成28年3月～令和4年6月	鹿児島空港ビルディング株式会社代表取締役社長
平成13年5月～平成17年5月	公益社団法人鹿児島県バス協会副会長
平成17年6月～平成19年5月	公益社団法人鹿児島県バス協会会長
平成19年5月～平成21年6月	公益社団法人鹿児島県バス協会副会長
平成13年8月～令和2年6月	鹿児島県道路利用者協議会会長
平成16年4月～平成25年3月	鹿児島地方最低賃金審議会委員
平成19年11月～平成28年10月	鹿児島商工会議所副会頭
平成21年8月～平成30年7月	鹿児島県人事委員会委員
平成27年5月～令和5年5月	公益財団法人鹿児島県暴力追放運動推進センター会長
平成28年6月～令和4年6月	公益社団法人鹿児島県観光連盟理事

●主な受賞歴

時 期	受 賞 歴
平成4年11月	鹿児島陸運支局表彰

● 主な功績

〈概要〉

鹿児島県内で旅客運送事業に精励される一方、公益社団法人鹿児島県バス協会会長や鹿児島空港ビルディング株式会社代表取締役社長等の要職を歴任するなど、長年にわたり県民生活の向上や観光の振興に大きく貢献。

〈個別〉

- ・ 南国交通株式会社に入社後、代表取締役社長や会長、相談役等を歴任し、旅客運送事業の公共的な使命について、強い自覚と信念を持って、バス事業の拡大を図りながら、地域住民の交通利便性の向上に尽力。
- ・ 平成17年6月に公益社団法人鹿児島県バス協会会長、平成28年3月には鹿児島空港ビルディング株式会社代表取締役社長に就任し、陸と空における本県の交通インフラの発展に貢献。
- ・ 鹿児島空港ビルディング株式会社代表取締役社長の在任中は、国際線旅客ターミナルビルの増改築を行い、出発・到着とも同時時間帯における受入可能な便数を拡大するとともに、免税店の店舗面積を2倍以上に拡張して本県の特産品等を多数揃えるなど、空の玄関口である鹿児島空港を利用する国内外の方々の利便性の向上及びサービスの充実に貢献。
- ・ アジアを中心とした経済発展・成長が著しい国や地域からの富裕層の利用を見込み、九州では初めてとなるビジネスジェット旅客専用受入施設である鹿児島空港ビジネスジェット専用施設「桜島」を整備したほか、鹿児島空港や空港周辺で災害が発生した場合に備え、霧島市と災害時における飲料水の提供及び調達に関する協定を締結。
- ・ 鹿児島空港移転開港50周年記念セレモニーや記念イベントの開催を通じて、鹿児島空港の魅力や地域の観光資源・特産品に係る情報発信に尽力。
- ・ 公益社団法人鹿児島県バス協会会長の在任中は、鹿児島市が発行する敬老・友愛パスのICカード化や、パソコン・携帯電話から九州全域の高速バスの運行状況を確認することができる「Qバスサーチ」システムの導入など、地域交通及び地域間交通における輸送サービスの改善と充実に取り組み、バス事業の適正な運営及び健全な発展の促進に尽力。

つぼ みず とくろう
坪 水 徳郎

◆年 齢／満72歳

◆現住所／鹿屋市

●主な経歴

時期	経歴
昭和62年4月～平成7年7月	坪水醸造株式会社専務取締役
平成7年8月～現在	坪水醸造株式会社代表取締役
平成7年8月～現在	大海酒販株式会社取締役
平成12年4月～平成24年6月	大海酒造協業組合理事
平成24年7月～現在	大海酒造株式会社取締役相談役
平成15年6月～平成22年5月	株式会社まちづくり鹿屋取締役
平成13年11月～平成21年11月	鹿屋商工会議所副会頭
平成21年11月～令和5年5月	鹿屋商工会議所会頭
令和5年6月～現在	鹿屋商工会議所顧問
平成22年11月～平成25年10月	鹿児島県商工会議所連合会副会長
平成28年11月～令和元年10月	同上
令和4年4月～令和5年5月	一般社団法人鹿児島県商工会議所連合会理事
昭和61年9月～平成24年5月	鹿児島県味噌醤油工業協同組合理事
平成24年5月～令和2年5月	鹿児島県味噌醤油工業協同組合理事長
令和2年5月～現在	鹿児島県味噌醤油工業協同組合理事
平成5年1月～平成5年12月	社団法人鹿屋青年会議所理事長
平成14年5月～平成20年6月	鹿屋市観光協会副会長
平成20年6月～平成24年6月	鹿屋市観光協会会長
平成21年11月～令和5年5月	大隅経済地域開発推進協議会会長

●主な受賞歴

時期	受賞歴
平成28年11月	全国醤油工業協同組合連合会会長表彰（役員功労）
令和5年3月	日本商工会議所会頭表彰（役員・議員勤続30年）
令和6年11月	鹿屋市民表彰（産業経済部門）
令和7年11月	旭日小綬章（産業振興功労）

●主な功績

〈概要〉

企業経営者として地域経済の発展に寄与するとともに、鹿児島県商工会議所連合会副会長や鹿屋商工会議所会頭などの要職を歴任するなど、本県中小企業の活性化に大きく貢献。

〈個別〉

- ・ 鹿屋商工会議所会頭に就任し、約14年の長きにわたり、誠意と情熱をもって円滑な事業運営に取り組むとともに、同商工会議所の社会的信用と地位向上のために尽力。また、鹿児島県商工会議所連合会副会長に就任し、通算で6年間、県内商工会議所の健全な運営及び商工業の振興に尽力。
- ・ 鹿屋商工会議所会頭就任時は、平成20年に発生したリーマンショックの影響により、地域経済は深刻な打撃を受け、多くの事業者が厳しい経営環境に直面していた中、氏の主導により購入額に10パーセントから30パーセント上乗せしたプレミアム付きの商品券を発行する「かのやプレミアム商品券発行事業」を実施。同商品券の発行は、個人消費の喚起と売買意欲の向上につながり、地元企業の活性化に寄与するとともに、同事業は令和5年度まで継続的に実施され、発行総額が76億円を超えるなど、地域経済の活性化に貢献。
- ・ 地場産業の振興を図るため、「まるごと“おおすみ”アグリ・フード商談会」を開催し、農畜水産加工品をはじめ、本県の特産品であるお茶や焼酎、菓子類などの食品関連事業者が、全国各地から招聘されたバイヤーと商談できる機会を提供。また、平成24年度からは株式会社日本政策金融公庫が主催する「アグリフードE X P O東京」への共同出展を推進し、地域の小規模事業者が農畜水産加工品を国内外へ販路拡大できるよう支援したほか、東京や大阪を積極的に訪問し、鹿屋・大隅地域の情報発信や地元産品のPR活動に尽力。
- ・ 大隅地域4市5町の商工会・商工会議所で構成される大隅経済地域開発推進協議会会長としては、東九州自動車道の末吉・財部ICから志布志IC間の開通や都城志布志道路の整備、大隅縦貫道等の地域高規格道路の建設など、インフラ整備に向けた陳情・要望活動に取り組み、地域経済の発展に貢献。
- ・ 鹿児島県味噌醤油工業協同組合理事長の在任中は、原材料や梱包資材の共同仕入れの拡充を図るなど、組合員の事業活動を支援し、組合員の安定的な事業運営に尽力。